

科学技術振興調整費の平成13年度に開始された プログラムの中間評価等について

平成15年3月28日
総合科学技術会議

1. 趣旨

「科学技術振興調整費の活用に関する基本方針」(平成13年3月22日総合科学技術会議決定)等に基づき、平成15年度においては、平成13年度に開始されたプログラムについて、総合科学技術会議が中間評価を行うこととされている。

その際に併せて、更なる科学技術振興調整費の効果的・効率的活用を図る方策についても検討する。

2. 検討内容

(1) プログラムの中間評価

プログラムの効果はどうであったか。

各府省の施策との関連に鑑み、先導的役割は未だ有効か。
廃止すべきか、継続すべきか、改善が必要か。等

(2) 効果的・効率的な活用方策の検討

13年度の制度改革で見直した方針が今日でも有効か。
第2期科学技術基本計画が2年経過し、各府省の施策の
充実、特殊法人、国立大学の独法化等の情勢の変化の中
で、科学技術振興調整費をどのように活用すべきか。等

3. 進め方

科学技術政策担当大臣及び有識者議員を中心に総合科学技術会議としての中間評価等の原案を作成し、総合科学技術会議に諮る。

具体的には、課題の審査を担当している文部科学省審議会委員との意見交換、各府省の施策実施状況の把握等を通じて中間評価等の原案の作成を行う。

4. スケジュール

本年夏を目途に総合科学技術会議に原案を諮り検討を行い、平成16年度の科学技術振興調整費の概算要求に反映させる。

科学技術振興調整費の平成13年度に開始されたプログラムの概要

プログラム名	概 要
戦略的研究拠点育成	優れた成果を生み出し、新しい時代を拓く研究開発システムを実現するため、組織の長の優れた構想とリーダーシップにより、研究開発機関の組織改革を進め、国際的に魅力のある卓越した研究拠点の創出を図る。
若手任期付研究員支援	研究員の任期制の広範な定着を目指し、若手の任期付研究員が任期中に自立的研究に専念できるよう、特に優秀な任期付研究員に対して任期中における研究を支援する。
科学技術政策提言	国家的・社会的な重要課題に対する科学技術政策立案機能を強化するため、科学技術と社会とのかかわりに目を向け、俯瞰的視点に立った分析に基づく政策提言の充実を図る。
先導的研究等の推進	科学技術の急速な発展に先見性と機動性をもって対応するため、境界を越えた融合により新たな領域の創成等が期待される先導的な研究開発を推進する。また、科学技術が社会に与える影響の広がりや深まりに先見性をもって対応するため、自然科学と人文・社会科学とを総合した研究開発を先導的に進める。さらに、緊急に対応を必要とする研究開発等を推進する。
新興分野人材養成	科学技術の振興にとって重要領域ではあるが人材が不足しており、戦略的な人材養成により、世界における我が国の地位を確保する必要がある新興の研究分野や、産業競争力の強化の観点から人材の養成・拡充が不可欠な研究分野において、プロフェッショナルを早期に育成するための人材養成ユニットを機動的に設置する。
我が国の国際的リーダーシップの確保	我が国が国際的な科学技術活動におけるリーダーシップを発揮し、国際社会における持続的な協力関係を作り上げるため、国として積極的な対応が必要な国際会議等の開催や、それに伴う国際的な調査研究等の活動を推進する。